**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選会員及び一般部門　エッセイ募集：2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：本郷の地へ　心をひとつに**

**お名前：福田　佳子**

(下記より本文をご記入ください)

「日本から祖国へ帰ったら、今の仕事を続けますか？」

「ん…。しない。するとすれば、ビジネス」

ビジネスという言葉の意味を正しく受け止められなかったが、今の仕事ではないのは、はっきり

していた。

　今の仕事。

　それは、高齢者の介護。

　職員の4分の1が、4か国から来日した外国籍の人たち。

　その方々を、ここでは「友」と表現させていただく。

日本語教育を受けている友は、会話、文字を書くこと、福祉、看護、医療の現場で使う言葉が、ほぼ通じる。

　親しくなり、国のこと、家族のこと、来日のきっかけなどを知る。

　ドスッ。

　衝撃。

　自分の中にあった壁や、間違いに、頭や身体を強く打ちつけられた。心も、水風船が割れたように、飛び散った気がした。

　友の全てに当てはまるのではないが、日本で学んだ専門的な知識や技能を、祖国に帰って伝えるとか、生かすために来日したのではなかった。

　友の国には高齢者の介護施設というものがなかった。

　高齢者とか、介護という概念さえなかった。

　家族が多世代で暮らし、年を経て、天に見送る。

　寿命が長く、知らない人に世話を受ける生活があることを、日本で知ったほどだった。

　それなのに、日本で通用する資格を取り、技能を学んでいた。

私の考えは、大袈裟に言えば、根拠もなく、介護の部分だけ考えると、友の国を上から見ていた。

　介護という比べる対象も存在しないのに。

　友を通して真実を見ることの大切さを痛感した。

　私の勝手な思いを恥ずかしく思い、友に対して申しわけなかった。自分のためでなく、日本で働く友を心から尊敬している。私の中にある表現できない傲慢に似た壁に気づかせてもらった。

　この体験、実感を通し、確かなこと、事実とは何だろうと深く思うことが増えた

　今は、社会全体が、情報や、自分が思ったこと、感じたことを自由に、制限が少々あっても拡散させている。事実かどうかも、わからないまま。

　私の中には、まだ、学んだ知識や経験、両親や知人、学校から伝えられたことが、自分の正しさになっている部分があると感じる。

　長い歴史の中でも、体験や経験、聞き伝えられた事柄が、いつの間にか自分の中で真実になってしまっているのではないだろうか。

平和。統一。和合。心が穏やかに安らかになる喜びの言葉を私たちは知っている。

皆が願うのに届かない夢ですか？

皆が目指しているのに実現しないのでしょうか？

私が友から得た真実によって歩み寄れたように、私たちは、ひとつになるための鍵を既に見つけている。歩み寄る方法も知っている。

　誰もが願う、愛する父母、兄弟姉妹。家族と暮らしたい。永遠に共に居たいという思い。

　既に手の中にある鍵で

　扉は開かれる。

　あなたも、あなたの友の真実を受け取ろう。そうすれば、本郷の地への歩みが始まる。

私たちは家族。共に暮らそう。

本郷の地で。

心躍る喜びと愛の香りに満ちた苑へ。

私たちはひとつ。

長い歴史の悲しみは喜びに変わる。

私たちの父母が愛した

和合、平和、統一の国の始まり。

本郷の地へ、心をひとつに。